

委員質問・意見等

第 141 回定例会 (3 月 4 日) 受付分

(浅賀委員)

● 東京電力 に対する 質問

・シルトフェンスは、海底まであるのか？ どの様な形態なのか。それで放射線の流出防げるのでしょうか。満潮、干潮時？ 風、降雨等天候でも不安はあると思うが、この様な簡単な事で放射線を防げるのか不安です。

● 資源エネルギー庁 に対する 質問

・「狭い日本、火山、地震国」、このどこに 300m の地下を掘るのでしょうか。
もし、300m 地下に何かあった時、誰がどの様に責任をとるのでしょうか。

3 月 17 日 受付分

(武本 (和) 委員)

● 東京電力、原子力規制委員会 に対する 質問

別紙のとおり

東京電力と規制委に対する地盤問題での質問

武本和幸

1年余続いている地盤調査で、3月17日、規制委による現地調査が行なわれた。

地盤問題に関する3月4日の地域の会での回答（2月4日質問）は

- ご承知のとおり、現在、調査作業と並行して評価のとりまとめを進めているところであります。
 ○ご質問が専門的で多岐にわたる内容であるため、回答につきましては、評価が終了した段階で、個別にではなく、これまでいただいたご質問も併せて、ご説明させていただきたいと考えております。
 であった。

同日、福島第一原発のK排水路からの汚染水の海洋流出問題の説明もあった。

その際の実説明やその後判明した事実から、「原因調査をして結果が出てから公表しようと考えた」結果、昨年5月にはそのデータを把握しておきながら、9カ月間“隠蔽”していたことが明らかになっている。この事件で、周辺住民や漁業者、国民に決定的な東電不信を与えた。東電の原子力部門のトップ、姉川尚史常務は3月4日、原子力規制委員会の福島第1原発監視検討会で「今回は、避難されている住民や国民の皆様方に不信感をさらにもたれる状況になり、データの扱いや公表の仕方、われわれに落ち度があったと考えている。今回は大変なご迷惑をかけて申し訳ありませんでした」と発言している。

地盤質問に対する回答は、「評価が終了まで答えない」とのもので、東電の独善的体質を示す、思い上がりも甚だしい態度と言わざるを得ない。こうした東電体質が、福島事故と福島汚染水海洋流出問題を引き起こしたと考える。また、「落ち度があった。体質改善し繰り返さない」と繰り返し謝罪するのがその場しのぎでしかないこと、K排水路問題の姉川反省発言が本音でないことを示すと考える。よって、以下事項を質問する。

東電に聞く

1. 評価終了は何時か。
2. それまでは回答しない権利が東電にあるのか。回答拒否の根拠は何か。
3. 「情報公開する」「質問に答える」はリップサービスでしかなかったのか。
4. 誰かに評価終了まで回答するなど指示されたのか。

規制委に聞く

東京電力に評価が終了まで住民の質問に答えるなど指示したのか。

また、寺尾断層トレンチ地点では、3月17日の規制委現地調査時で2本のボーリングが実施中である。

規制委現地調査は、調査途中であり、不完全な調査結果に基づいて実施していることにならないのか。

調査はいつまで継続するのか。東電の発表内容（事業者ヒアリングや規制基準適合性審査会合での発表等）への疑問は何処に聞けば良いのか。

東電に聞く

調査はいつまで継続するのか。

調査途中の成果はどこに反映されるのか。いつ公表されるのか。

東電の発表内容への疑問の質問や、主張の誤り指摘の窓口は何処か。

規制委に聞く

不完全な調査結果に基づく現地調査でないのか。調査途中の成果はどこに反映されるのか。

東電説明や規制委との議論への疑問や質問窓口は何処か。